

---

# Lived Load

Three PEACE

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

L i v e d L o a d

### 【Nコード】

N 4 5 9 6 D

### 【作者名】

T h r e e P E A C E

### 【あらすじ】

人って強い、人って弱い、それが人、嵐の生きた道は、強かったよ

(前書き)

最後まで読んでください

お前が、天国に行ってもう4年になる、お前が「生きた道」はずつと消えない、でも、俺、寂しいよ、俺、苦しいよ、俺……会いてえよ。

それは今から5年前になる、俺らは高校生だった

「嵐、お前は強いよ、名前どおりにだよ、お前は強いよ……」

嵐

「オカア、なんで、俺の名前は嵐なん？」  
オカア

「自然の力ってどんなものにも負けないでしょ、自然の力ってすごく強いでしょ。嵐も「嵐」みたいに強くなっただけだからよ」

嵐

「ふーん……」

嵐は強がりでバカだった。毎日楽しく過ごしていたのに、あの病気は、嵐をえらんだ。

「がん」嵐は16歳の若さで「がん」になった、でも嵐はこの五ヶ月間精一杯生きた。

「がん」になって一週間

嵐

「まさ（俺）、ごめんな、見舞いなんかに来てくれて、すくなおして、早く学校に行くから」

まさ

「ゆつくりな、早く学校来いよ！じゃあな」

嵐

「おう！」

俺はこの時はまだ、嵐の病気を知らなかった。

嵐の母

「まさ君、ちょっと話があるの、嵐の病気の事で」

まさ

「はい……」

嵐の母

「嵐………「がん」なの、もうながくないの」

まさ

「え……嵐が死ぬ？」

俺はあの時はまだ理解出来ていなかった、「がん」の怖さをしらなかった。

嵐が俺に自分は「がん」と教えてくれたのは、嵐が死ぬ二ヶ月前だった。嵐はずっと笑っていた、ずっと笑っていた…。

嵐

「「がん」なんだよ！はは、笑っちゃうよな…、マジうける…」

嵐は無理をしていたと思う、でもそれすらわからないぐらい、明るかった、嵐は強かった…。

嵐

「まさ、泣くなよ、俺は泣いてないぞ、俺に涙を見せるな！涙は嫌いだ、涙は、悲しいから……」

まさ

「ごめんな、ごめん、」

嵐

「俺、絶対死なねえから、心配すんな」

まさ

「死んだらゆるさねえぞ！」

嵐

「おう！」

嵐の病気はどんどん悪くなっていった、嵐が死ぬ一ヶ月前の事だ、嵐が初めて俺にわがママを言った。

嵐

「まさ、頼みがある」

まさ

「なに？」

嵐

「後もう一回でいいから、海が見たい」

まさ

「……………わかった、絶対連れて行ってやる！」

俺は泣きそうになった、最初で最後のわがママが海が見たいだなんて、もっとわがママ言えよ、もっと頼れよ、もっと弱くなれよ…、俺は病室を出てから泣いた、涙がとまらなかった…。そして三日後海に行った。嵐は子供のようにはいしゃいだ。そしてその日を俺は絶対に忘れない、だって嵐が初めて弱くなった日だから…。

嵐

「……………まさ、」

まさ

「なに？」

嵐

「俺生きたい、生きてえよ、なあまさ、生きたいよ死にたくねえよ、なんで、なんで」「がん」は俺を選んだんだよ、なんでだよ、死にたくないよ……………生きたいよ」

まさ

「嵐……………」

嵐が初めて俺に泣きついた、嵐が初めて泣いた、嵐が初めて弱くなった……。でも次の日には強い嵐に戻っていた、それからずっと嵐は笑っていた、嵐が死ぬ二日前、俺は病室に見舞えにいった、病室の前に行くと、病室の中から嵐の泣き叫ぶ声が聞こえた。嵐はずっとお母さんに謝っていた。

嵐

「オカア、ごめんな、強くなって、名前どおりじゃなくて、オカア弱くてごめんな」

母

「もう言わないで、嵐は強いよ、嵐は「嵐」になれたよ、強い「嵐」になれたよ、嵐は強いよ」

嵐

「オカア、ごめん、ごめんな」

俺は泣いた、病室の前で泣いた、嵐の「ごめんな」が胸に響いて、胸が痛かった。

次の日嵐にこんな事を聞かれた

嵐

「俺の「生きた道」ってちゃんとあるのかなあ、ちゃんと……道、あるかなあ」

まさ

「あるさあ、嵐が笑えば、道は強くなっていく、「嵐」のようにね」

そして嵐は天国にいった。最後はずっと、笑っていた。嵐の「生きた道」は強くて「嵐」のように強かった。



嵐、俺はいつも泣いてたよな、泣き虫でごめんな、嵐、俺全然強くなれないよ、俺にはまだ自分の「生きた道」が見えないよ、俺の道は強いですか？俺、「生きた道」あるかなあ、嵐、会いたいよ。それから、俺はあの海にむかった、そして海には嵐が居た。

嵐

「よっ！まさ」

まさ

「おう……」

嵐

「ちゃんと笑ってるか、泣いてないかあ、涙は嫌いだぞ」

まさ

「わかってるよ、嵐はどうよ？」

嵐

「俺は、「生きた道」を誇りに思ってるんで上手くやってる」

まさ

「俺にも、「生きた道」あるかなあ？」

嵐

「あるぜ、ちゃんとまっすぐ」

まさ

「その「生きた道」を、俺は強くしたいよ」

嵐

「なら、……………」

ぱっっ

俺は砂浜で寝ていた、夢だった、俺はわからなかった、強くなりた  
い、でも俺は前に進む、前に進み続けて、いつか答えを自分で見つ  
ける。

「人は強い」

でも本当は、

「人は弱い」

だから、強くするんだ、

自分の……………

……………「生きた道」を……………

（後書き）

最後まで読んでくれてありがとうございます。  
お願いします。へたですみません

またよろしく

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4596d/>

---

Lived Load

2010年12月30日02時36分発行